

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名	社会福祉法人村山苑 ひよし保育園
活動日時	2026/8～2026/10～うどんまで
クラス	2歳児
年間テーマ	感触

1.活動のテーマ

〈テーマ〉

感触

〈テーマの設定理由（子どもの姿）〉

梅雨入り前の暑い日、タライに水を入れると、手を入れたり砂場にあるカップで水をすくったりする姿が見られた。周りに水たまりができる水とは違う「泥」の感触に気づき水と砂を混ぜて変化する様子を楽しんでいた。その様子から様々な素材に触れる経験は五感を育てるとともに「やってみたい」という主体的な遊びにつながると思った。

2.活動スケジュール

風船スクイーズを触ることで中身に興味を持ち片栗粉あそびにつなげていく。

3.活動の為に準備した素材や道具、環境の設定

素材や道具：

片栗粉、水、タライ、風船、スプーン、
ジョウゴ（ペットボトルで作成）

環境：

テラス

4.探究活動の実践

〈活動の内容〉

風船スクイーズ遊びから風船の中身に興味を持ち「まほうのこな」に関心を持った。片栗粉と水を混ぜ感触が変化していくことに気づき「もっとやりたい」「さわってみたい」という好奇心を持つ。
粉と水を混ぜることで食べ物ができることを知り「うどん作り」の食育にもつなげていく。

〈活動中の子どもの姿や声、子ども同士や保育者との関わり・写真〉

片栗粉を手につけて「おおかみみたい」と絵本をイメージしてみたり、水を少しずつ入れると粉の感触の変化に気づき「カタイネ」「ドロドロ」と言葉で伝えている子もいた。片栗粉が取れなくて戸惑いを見せていた子、ドロドロを楽しみ手で混ぜたり手足につけて感触を味わっている子もいた。

その後、片栗粉の垂れる様子をお化けに見立て、「お化け追いかっこ」をしている子もいた。



5.活動振り返り〈振り返りによって得た大人の気づき〉

- ・風船スクイーズを触ることで「つくってみたい」「まほうのこなってなんだろう」と興味を持って取り組むことが出来た。
- ・表情や言葉に共感し寄り添うことで子どもたちは心を開き、安心して遊ぶことが出来たと感じた。
- ・このような心が動かされるような体験をすることで、その感覚がその次の「どうして？」という探究心につながるのではないかと感じた。